

## まちぶん那須野が原 (入選作品審査員コメント)

① 「望郷—那須野が原の翌檜—」(今野 綾)

・森 詠 (小説家/那須塩原市まちづくり大使)

ストーリーとしてはまとまって、面白かったので好感をもてる。もう少し主人公たちのキャラが立つようにすればよかった。ライトノベルとしてより、ちゃんとした恋愛小説として書くと良かったのかもしれない。取材をもっとするとさらに良くなる。今後の創作に期待する。

・渡辺 紘文 (映画監督/脚本家 大田原市在住)

青木周蔵やハナのことを知らない人や幅広い世代の人が読んでもとても面白く読める作品だと思いました。読ませていただいた作品の中では文体、構成、人物描写など、“小説”としてのバランスが最も良い作品だと感じました。作品世界をより掘り下げたもう少し長い作品としても読んでみたいと思わされる作品でした。

・橋本 佳奈子 (矢板市活性化団体「まちのあかり」所属 矢板市在住)

那須野が原の自然が豊かに描かれていて好感が持てました。

・渡邊 光男 (元県立高等学校校長/現代文担当 那須町在住)

青木周蔵と小作人との交流、郷土の歴史の1コマを懐かしく読みました。事件の展開、人物像、那須の自然描写などはもう一度自分の言葉で掘り下げて欲しいと思います。

・木村 康夫 (那須野が原開拓日本遺産活用推進協議会委員/大田原市歴史民俗資料館館長)

那須野が原の開拓ロマンがあって、力作だと思う。しかし、青木家の人物造型や開拓民の苦労話は少し甘い。地域風土の活かし方がおいしい気がした。

② 「風舞う街」(那須野 透)

・森 詠 (小説家/那須塩原市まちづくり大使)

ファンタジー作品として面白く読んだ。もう少し主人公たちのキャラを立てればさらにいい作品になったと思う。才能もあり好感度も高い作品。ただし、那須野が原と言う特定の場所ではなくても舞台を変えられる点は弱い。書き込んで行けば化ける可能性がある。頑張って次の作品に挑んで欲しい。

・渡辺 紘文 (映画監督/脚本家 大田原市在住)

今回拝読させて頂いた作品の中で“那須野が原の物語”ということが最も強く意識されて書かれた作品だと感じました。那須野ヶ原を舞台にしたファンタジーとして非常に魅力的な作品だと思いました。さらに突き抜けた独創性を持てばより面白い作品にできたのではないかと大きな可能性を感じる作品でもありました。

・橋本 佳奈子 (矢板市活性化団体「まちのあかり」所属 矢板市在住)

光やあかりにつつまれた透明感のある作品でした。

・渡邊 光男 (元県立高等学校校長/現代文担当 那須町在住)

奇抜・斬新なプロローグから、母子の日常へ自然に引き込まれました。西郷神社の簡素でうら淋しい佇まいから、河川の守護霊たちへの展開もおもしろく、水害の場面も 20 年前を彷彿とさせました。

・木村 康夫 (那須野が原開拓日本遺産活用推進協議会委員/大田原市歴史民俗資料館館長)

物語性(ファンタジー)があって面白く読めた。どこか既視感のあるストーリー構成が惜しい。

③ 「ミルク・クラウン」(花 千世子)

・森 詠 (小説家/那須塩原市まちづくり大使)

ライトノベルとして面白く読めた。だが、他にも似たような作品が沢山あるので工夫が必要かと思う。もう少し主人公たちのキャラを立てると良くなると思う。那須野が原でなくてもどこでも生きてしまう作品なのでもう少し那須の取材をして書けばより良い作品になる。好感度は高いので、今後の活躍を期待します。

・渡辺 紘文 (映画監督/脚本家 大田原市在住)

最初から最後まで面白く拝読させて頂きました。キャラクターも魅力的でセリフも構成もうまく、読者を引き込み読ませる力はプロだと思います。小説に留まらず実写映画、アニメ、漫画などに展開しても良い作品だと思います。

・橋本 佳奈子 (矢板市活性化団体「まちのあかり」所属 矢板市在住)

さわやかな青春物語で若い方に好まれる作品だと思います。

・渡邊 光男 (元県立高等学校校長/現代文担当 那須町在住)

おもしろく、一息で読みました。現代の高校の生徒の気質、雰囲気は軽妙な言葉、語り口調で淀みなく展開。読ませる力があります。

・木村 康夫 (那須野が原開拓日本遺産活用推進協議会委員/大田原市歴史民俗資料館館長)

若者らしさにあふれた作品で好感をもった。物語性もある。ただし、那須野が原でこの主題(テーマ)を描く必然性を感じなかった。